

令和５年度 国立夜須高原青少年自然の家教育事業

夜須高原 竹を楽しむファミリーキャンプ③

『 家族で挑戦、竹炭焼き体験！ 』

【実施報告】

１．趣 旨 夜須高原の里地里山に及ぼす竹害の現状に触れ、竹を活用した自然体験や生活体験の中にSDGsの視点を取り入れ、家族で持続可能な社会づくりについて楽しく学ぶことを目的とする。また、活動を通して、親子の絆や参加者同士の交流を深める場を提供する。

２．主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

３．期 間 令和５年１０月２１日（土）～２２日（日）

４．場 所 国立夜須高原青少年自然の家（福岡県朝倉郡筑前町三箇山 1103）

５．参 加 者 26名(8家族)

６．活動様子

６-１．SDGsウォークラリー



6-2. 竹炭焼き



6-3. 竹灯籠作り



6-4. 焚き火体験



6-5. 野外炊事



7. 感想

① プログラムに関すること

- ・次女(3歳)には少しつらかったみたいですが長女にはシャベルで掘ったりの体験もあって良かったようです。
- ・(ウォークラリーの)距離がちょうど良かった
- ・竹灯籠作りは意外に簡単に綺麗なものが作れることが分かりました。
- ・想像よりも素敵な灯籠ができ、とても喜んでいました。
- ・(竹灯籠を)完成後、確認できて達成感を感じることが出来た。
- ・初めてのことでだらけだったので楽しかったです。炊き込みご飯とても美味しかったです。

② 事業全体に関すること

- ・娘は早速また来たいと言っていました。
- ・カリキュラム・説明・食事で満足できました。
- ・一泊二日で時間的にも内容も充実していて良かったです。
- ・作業の段取りなどがイメージできないこともあり、職員の皆さんの手間にならない範囲で事前に段取りの共有をしていただけるとゴール感が分かってより良いと思いました。

8. 成果

本事業を通して、参加者は夜須高原の里地里山地域に生じている竹害について学習するとともに、竹灯籠作りや竹を使った野外炊飯を通して夜須高原の竹林や自然を楽しむことができた。

SDGsウォークラリーでは、夜須高原の里地里山地域に侵入している竹林と竹害の現

状を観察してもらうとともに、森林と竹林にはどのような違いがあるのかを確かめるため土壌を使った実験も行った。その結果、竹林の土壌は保水力が低いということを実際に目で見て体感してもらうことが出来た。

竹炭焼きでは、竹を大量に燃やし生活に役立つ竹炭として消費することが竹害の緩和に有効であるということを実際に体験してもらった。

焚き火体験では、2家族で1つの焚き火を囲んだことで家族間での交流を楽しむ様子が見られた。また、焚き火体験の会場に実際に灯りを灯した竹灯籠を設置したことで、竹灯籠を作成した達成感を感じてもらうことが出来た。

野外炊事では、家族で協力して竹飯ごうを作るところから実際に炊き込みご飯を炊くところまでを体験してもらい、竹が様々な用途に利用できることを体感してもらうことが出来た。また、調理の過程で家族間での交流を行っている様子も見受けられた。

一連の事業を通して、竹を使った普段体験できない活動を提供することができ、親子の絆を深めること、家族間の交流を図ること、子どもたちの豊かな感情の醸成に寄与することが出来たと考える。また、竹炭焼きや竹を使った野外炊事を通して、様々な用途に利用できる竹の魅力を参加者に感じてもらうことが出来たと思われる。

9. 課 題

本事業では、竹炭焼きを事業の中心的な活動として実施したが、作成した竹炭自体を事業の中で使用出来なかったことが課題として挙げられる。竹炭を活用した石鹼作りなど、竹炭自体の活用方法についても今後開発する必要がある。

次に、竹灯籠作りの作業工程が複雑であり、作業が保護者中心となってしまう未就学児の参加者が作業に関われる工程が少なかったことも今後の課題として挙げられる。次回以降は、作業の難易度を考慮して様々なタイプの竹灯籠を作成できるように事前に準備を行っておくなどの対応が必要であると考ええる。また、今後竹灯籠作りのノウハウを蓄積し、研修支援のプログラムなどに落とし込んでいけるよう模索したい。